

正しい知識で自然と共存
特定外来生物再び アレチウリの駆除



こんにちは。環境共生課です。寒い季節も過ぎ去り、そよ風と新緑が気持ちのいい季節となってきました。
 「楽しく自然とふれあいたい」そう思っている今回は、特定外来生物の1つでもあるアレチウリについて皆さんといっしょに考えていきます。

● **アレチウリ**とは？

ズバリ！！特定外来生物の一種です！

★ **原産地：北アメリカ**

日本で最初に確認されたのは、1952年静岡県清水港。
 当時、輸入大豆に種子が混入し、それが広がったと言われています。

★ **特徴：ウリ科の一年草。**

5月頃、芽生えを開始。5～6月、沢山雨が降った翌日に発芽がしやすくなります。
 茎がつる状になっており、その長さは数十mになることも。果実には鋭いトゲがあります。
 9月頃から1株500個以上(25,000個とも言われる)の種をつけます。これが11月まで続きます。



12月から次の発芽期間まで株は枯れていますが、種が土の中で生き続けることと、広く繁茂してしまうとそまそまの駆除が困難なことから、そのままの姿で枯れてしまい、他の植物成長の妨げとなってしまうことが特徴です。

広範囲に渡って成長するために、他の植物の成育の妨げになってしまう！



特徴的な五角形の葉

● **特定外来生物とは～再び～**

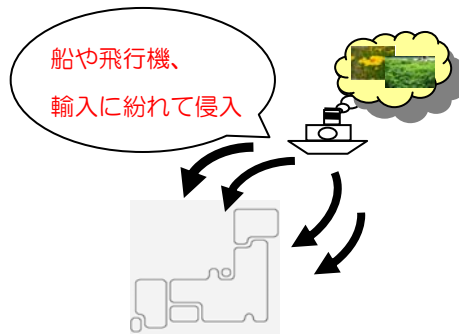
オオキンケイギクの項目でも勉強した特定外来生物について、もう一度考えてみることにしましょう。(過去のトピックス「環境共生課 広報誌 第1号」参照)

★ **特定外来生物とは？**

海外起源の外来生物であって、生態系、

人の生命・身体・農林水産業へ影響を及ぼす、または及ぼす恐れのあるものを指します。

植物などは一見良い印象ばかりを抱きますが、その繁殖力や生息場所によっては日本の古来種の減少・絶滅の危機を招いたり、作物へ影響する場合は食生活に対しても大きな被害を出す危険性があるのです。



生態系が一つ変わることによって大きな影響を及ぼすことを頭に入れて、
もう一度考えてみましょう！



では、そんなアレチウリの駆除方法について、ここで説明しましょう！！



● **アレチウリ駆除のための3つのポイント**

point1: 種を付ける前に抜き取る!!

point2: 株が小さいうちに抜き取る!!

point3: 年に数回、数年に渡り継続して行う!!

ここで1つずつ簡単に説明していきましょう！なお、これらは、アレチウリの生態特徴と密接に関係しているということも一緒に覚えておきましょう。(下線部)



広範囲に渡って繁茂するアレチウリ

point1 について 1株から大量の種がとれることから、早めの対策として必要になってきます。

point2 について 広範囲に渡って成長するために株が小さいうちからの駆除を勧めています。また芽が小さいうちは抜き取りが簡単です。さらに雨が降った翌日には土がやわらかくなるためになお抜き取りやすくなります。

point3 について アレチウリの種には土の中で何年も生き続けるという能力があるために1回の駆除では再生する可能性が大いにあります。そこで発芽から種ができるまでの期間に数回(だいたい5月~9月に行う。特に発芽に適している

沢山の雨が降った翌日)、さらに数年間継続的に駆除をする必要性があるのです。

この他にも機械を使った草刈りや除草剤を使った駆除方法もありますが、種が落ち、土中に埋まっていることを考えると、やはり地道かつ繰り返しの作業が必要となります。

これらを理解した上での根気の良い駆除が必要となるのです!!

※. アレチウリのそばに繁殖力の高い他の外来種が存在している場合、アレチウリ駆除後にそれらが繁殖する恐れがあります。合わせて駆除をすることを勧めます。



川の沿岸に生息するアレチウリ

● **最後に**

今回も日本の古来種等生態関係に悪い影響を及ぼすという視点で、特定外来生物アレチウリを紹介しました。

「正しい知識で自然との共存を図る」皆様のご理解・ご協力をお願いします。